



## 平成 28 年度 実践事例集

～地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える教育活動～

北海道教育委員会

# 平成28年度「地域学校協働活動」実践事例集 もくじ

## ■事例集の発行にあたって

## ■平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰受賞活動

**01 占冠村** (上川管内) 学校支援活動／コミュニティ・スクール

---

**02 帯広市** (十勝管内) 学校支援活動／放課後子供教室／土曜日等の教育活動

---

**03 栗山町** (空知管内) 土曜日等の教育活動

---

## ■各市町村における実践事例

**04 東川町** (上川管内) 学校支援活動

---

**05 苫前町** (留萌管内) 学校支援活動

---

**06 別海町** (根室管内) 学校支援活動

---

**07 恵庭市** (石狩管内) 放課後子供教室

---

**08 平取町** (日高管内) 放課後子供教室

---

**09 厚沢部町** (檜山管内) 放課後子供教室

---

**10 大空町** (オホーツク管内) 放課後子供教室

---

**11 鹿部町** (渡島管内) 土曜日等の教育活動

---

**12 利尻町** (宗谷管内) 土曜日等の教育活動

---

**13 白糠町** (釧路管内) 土曜日等の教育活動

---

**14 小樽市** (後志管内) 子ども未来塾／学校支援活動

---

**15 洞爺湖町** (胆振管内) 子ども未来塾

---

## 事例集の発行にあたって

中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（H27.12.21）では、①厳しい時代を生き抜く力の育成、②信頼される学校づくり、③社会的な教育基盤構築等の観点から、「学校と地域がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組み」の必要性が示されました。

この背景には、子どもたちの規範意識や社会性、自尊意識等に関わる問題、生活習慣の乱れによる学習意欲や体力・気力の低下のほか、いじめや不登校、教員の勤務負担など、複雑化する多くの課題を学校だけで解決することが困難になっているとの指摘があります。

こうしたことから、学校と地域住民等が目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換や、学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る「学校を核とした地域づくり」の推進などが求められており、それらを実現する取組として「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」が示されています。

コミュニティ・スクールは、法に基づく「学校運営協議会」を設置した学校を指し、子どもの成長に関する地域の願いを学校運営の基本方針に反映させ、教育活動を推進する制度です。法令の改正により、教育委員会による学校運営協議会の設置が努力義務とされることが見込まれることなどから、今後、より一層推進していく必要があります。

また、地域学校協働活動は、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える活動（学校支援活動、放課後子供教室、土曜日等の教育活動、子ども未来塾など）を連携させたものです。各市町村においては、地域住民等が、これらの活動に積極的に参画し、地域の実情に応じた様々な活動が展開されています。

本事例集は、多くの成果を上げている地域学校協働活動の優れた実践をまとめたものであり、各地域において、学校と地域の連携・協働による活動の充実が図られるよう、御活用いただければ幸いです。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、関係市町村教育委員会の皆様の多大なる御協力をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

平成29年3月

北海道教育庁学校教育局義務教育課教育環境支援担当課長 谷 垣 朗

## 占冠村 上川管内

【活動名】

占冠村学校支援地域本部

【関係する学校】

占冠中央小・占冠中・トナム小中



【中学生への山菜料理指導】

## 地域資源をフル活用した 学校支援活動

### 1 活動の概要

- 地域に根ざした子どもの健全な成長を地域全体で見守り、支援していくため、地域、学校、家庭が一体となって占冠村学校支援地域本部を組織
- 平成 26 年 5 月に占冠中央小学校、平成 28 年 5 月に占冠中学校、トナム小中学校がコミュニティ・スクールに指定

#### 実施上の工夫

- ・「ボランティア人材バンク」を作成し、71 名（H28.3 現在）が登録。バンクを活用し、学校からの支援要請やボランティアからの自発的な活動をコーディネーターが総合的に調整
- ・年度末に成果報告会を実施し、活動の成果を発信

### 2 特徴的な活動内容

地域に密着した支援として、①地域の山菜料理を指導する際に、ボランティアが児童生徒に山菜の種類や採り方も指導している。②「占冠音頭」を伝承し、運動会において地域住民と一緒に披露している。③食育の一環として地場産野菜を使った漬物教室、学童農園での野菜の育て方教室、秋には地域住民を学校に招待し、子どもたちが作った料理をふるまう収穫祭を開催している。

また、学校と連携し、ボランティアへの情報発信を行うことで、着付け教室、放課後の見守り、楽器合奏指導、読み聞かせ、学校周辺的环境整備、部活動の支援、スキー教室指導等、ボランティアの自発的な活動を促進している。



【運動会で占冠音頭を披露】

### 3 事業の成果

- 子どもの学びを地域が支援することにより、学校への理解が深まり、地域住民の中で「地域の中の学校」という意識が強くなった。
- 学校と地域が連携することで、地域に開かれた学校運営となり、多くの地域住民が関わり、地域全体で子どもの学びを支援するという環境が整った。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	学校運営協議会の方針を踏まえ、3名のコーディネーターが協働の窓口
目標の共有	広報紙の発行や成果報告会による、地域住民やボランティアへの活動の周知
多くの住民参画	人材バンクの活用による、学校のニーズに対応したボランティア派遣



# 帯広市 十勝管内

【活動名】

帯広第五学校支援地域本部

【関係する学校】

緑丘小

## 複数の事業連携による 多岐にわたる活動の展開

### 1 活動の概要

- 地域住民や関係団体などが、学校と連携・協働し、学校支援活動、放課後子供教室、土曜学習において、多岐にわたる活動を実施
- 子どもに関わる地域の関係団体の代表者による連携会議や子どもの育成に関わるシンポジウムを開くなどして、地域ぐるみで子育てを推進



【長期休業中の補足的な学習】

#### 実施上の工夫

- ・ 子どもに関わる地域団体の代表者による会合を定期的で開催し、活動内容や子どもの様子などについて確認
- ・ 保護者や地域の方に、活動についての理解と活動支援の拡大を図るため、子どもに関わる地域団体の代表者によるシンポジウムの開催

### 2 特徴的な活動内容

地域の実情に精通したコーディネーターを中心に、学校と地域が連携・協働した活動を展開している。学校支援活動では、長期休業中の補足的な学習や図書ボランティアによる読み聞かせ、放課後子供教室「みどりっこクラブ」では、詩吟寺子屋教室や自由遊びなど、土曜学習では、クリスマスやハロウィンといった季節の行事や防災教室など、多岐にわたる活動を行っている。

また、登下校支援ボランティアを中心とした、児童の登下校の安全指導を行う見守り活動や、関係団体の連携・協働による「みどりっこ夏祭り(8月)」、「子どもフェスティバル(11月)」、「ウインターフェスティバル(1月)」といった行事が行われ、大きなイベントとして育て上げられている。



【みどりっこ夏祭り】

### 3 事業の成果

- 学校の中だけでは得られない体験的な学びの機会を様々に増やすことで、子どもたちの健全育成に大きく寄与している。
- 関係団体の連携が、子どもを中心としてより強固なものになることで、活動の輪が地域老人クラブ連合会や校区中学校にも及ぶなど、広範囲に広げることができた。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	コーディネーターが、学校を中心に、地域の様々な団体と連携する体制を構築
目標の共有	地域団体会議やシンポジウムの実施を通じ、地域全体で目標を共有
多くの住民参画	地域の様々な団体が連携する体制を構築し、地域全体を巻き込んだ子育て環境づくりの推進

## 栗山町 空知管内

【活動名】  
土曜授業推進事業

【関係する学校】  
継立小・角田小



【継立小学校の収穫感謝祭】

## 地域の産業・スポーツ等を 体験的に学ぶ土曜授業

### 1 活動の概要

- 学校・家庭・地域が連携した体験活動の機会を提供し、栗山町が目指す「伝える力・伝え合う力・かわりあう力の育成」の実現
- 平成 28 年 4 月から、継立小学校、角田小学校がコミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会での協議を踏まえた活動を展開

### 実施上の工夫

- ・ 学校、家庭、地域、教育委員会のすべての大人が役割分担をし、それぞれの立場を活かした取組になるように工夫
- ・ 子どもたちが「ふるさと栗山」を学び、地域の方々とのつながりの楽しさを感じるような活動を意識

### 2 特徴的な活動内容

本事業は、教育課程に位置づけた土曜授業として、年間 8 回～10 回程度実施している。保護者・地域住民・家庭教育サポート企業等と連携・協働しながら、体験的な活動を行っており、学校運営協議会委員が積極的に講師を務めている。

継立小学校においては、アスファルト工場、トマト・メロン栽培農家や酪農家等と連携・協力し、地域の産業に関わる見学や体験等をとおして、キャリア教育を推進している。

角田小学校では、スポーツテストや水泳教室等の体力向上に向けた取組や、防犯・防災教室、収穫感謝祭、ふれあい発表会、冬の遊び体験による交流等、保護者や地域の方々が参画しやすい活動を推進している。



【角田小学校の冬の遊び体験】

### 3 事業の成果

- 子どもたちは、身近なものに対して体験的に詳しく学習することで、様々なものに興味・関心を持ち、日常の教育活動にも意欲的に取り組んでいる。
- 地域の協力を継続的に得ることで、地域住民の学校への関心が深まり、学校に協力しようという意識が高まった。

### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	学校運営協議会の方針を受け、各学校のコーディネーターが、効果的な運営を推進
目標の共有	町の広報誌やホームページへの記事掲載や関係者による綿密な打合せの会議の開催
多くの住民参画	学校・家庭・地域・教育委員会等すべての人が関わることができるよう、役割を明確化



## 東川町 上川管内

【活動名】  
地域学校協働活動

【関係する学校】  
町内全小・中学校（小4・中1）



【クロスカントリースキーの指導】

## コーディネーターを中心とした学校支援の取組

### 1 活動の概要

- 地域に根ざした子どもの健全な成長を地域全体で見まもり、支援していくため、学校・家庭・地域が一体となって地域学校協働本部を組織
- 地域協働本部は新たな組織を立ち上げるのではなく、既存組織（学社連携推進本部）を活用し、協働本部としての活動は定着

#### 実施上の工夫

- ・今年度地域学校協働本部へ移行し、放課後子供教室や家庭教育支援活動など一体的に運営
- ・学校支援活動はコーディネーターが学校のニーズを把握し、それに見合う町内の個人・団体を把握し派遣

### 2 特徴的な活動内容

学校と地域を知る2名のコーディネーターが窓口となり、学校のニーズに対応した水泳、スキー、クロスカントリースキー、登山、陸上等スポーツ指導や美化清掃に対してボランティアを派遣している。また稲作の学習については農業者と学校の調整を行い、学習の場を提供している。

特別支援教育については学校のコーディネーターと連携することにより、児童クラブに支援員を配置して切れ目のない支援を実現するとともに、放課後での様子を学校にフィードバックして支援の輪を広げている。

さらに学校支援の現場を訪問し、成果と課題をその場で共有することで、支援の質を高めることにつながっており、このようなコーディネーターの学校との関係性を礎とした学校支援活動を展開している。



【稲作学習の様子】

### 3 事業の成果

- 地域住民が教育の当事者意識をもって、子どもの学びを支援することにより、学校への理解が深まり、教育の責任を学校だけに負わせない体制を構築している。
- コーディネーターが学校のニーズを的確に把握し、地域による積極的な支援を行うことで、より専門的な内容の教育活動が展開された。

### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	学校と地域を知る2名の退職校長がコーディネーターとなり、協働活動を支援
目標の共有	コーディネーターが、学校やボランティアに活動の目的を伝えることによる情報の共有化
多くの住民参画	個人・団体・NPO・企業等と連携し、学校のニーズに対応したボランティア派遣

## 苫前町 留萌管内

【活動名】  
学社融合事業

【関係する学校】  
苫前小・古丹別小

学校と地域が一体となり  
豊かな教育活動を提供



【田植え体験の様子】

### 1 活動の概要

- 学校教育と社会教育が一体となって、地域全体で子どもたちを育てることを目的とし、平成8年度から実施
- 町内の施設見学のほか、地引き網体験や稲作体験、くま獅子舞体験などを、多くの関係団体等の協力を得ながら、各教科や総合的な学習の時間で実施

#### 実施上の工夫

- ・町内小・中学校の教頭及び担当者と、教育委員会社会教育担当者が協議し、町全体で実施する体験活動等の年間計画を作成
- ・取組ごとに、学校担当者と教育委員会担当者、講師等が打合せを行い、活動の目的を共有
- ・反省などの次年度への引継ぎ

### 2 特徴的な活動内容

学社融合事業は、地域の人材や資源を活用しながら、自然や産業、歴史など多岐にわたる体験活動を展開している。

年間 50 以上ある事業の中で、稲作体験は米の生産や収穫の体験をとおして、食の大切さを体感することを目的とし、春から秋までの約半年間に複数回の学習機会を設定した取組となっている。

活動内容は、4月に育苗マットに種籾をまく「種籾まき体験」、5月に手作業による稲の植え付けを行う「田植え体験」、7月に水田の様子を見学し、稲の生育状況を調べる「生育調査」、9月に「稲刈り体験」を行っている。

12月には半年間お世話になった講師の方々を招待し、子どもたちが稲作体験を通して学んだことを発表する「稲作体験発表会」を実施している。



【稲作体験発表会の様子】

### 3 事業の成果

- 様々な体験活動を通して地域の方々と接する機会を提供することにより、子どもたちに、よりよい人間関係を形成しようとする力を育成することができた。
- 地域の方々が、講師や活動の支援などで様々な学校の教育活動に関わることにより、子どもたちとの交流が深まり、地域全体で子どもたちを育む環境づくりを進めることができた。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	事前打合せの機会を設定し、日程調整のほか、学校、講師の意見の調整、各事業の反省、評価の実施
目標の共有	運営者間の話し合いによる活動目的の共有及び事業内容を掲載した広報紙の発行
多くの住民参画	各事業所等の情報収集により、各学校のニーズに対応した講師やボランティアの派遣



## 別海町 根室管内

【活動名】  
地域生涯学習推進協議会

【関係する学校】  
町内全保育園・幼稚園・小中学校



【教育フェスティバル】

## 地区の関係団体による 子どもを支える活動

### 1 活動の概要

- 地区の幼児・児童生徒の健全育成と、自ら学び続ける豊かな学習社会の実現を目的として学校・家庭・地域の連携を図るため、地区の関係団体により組織
- 中春別地区での設立（昭和60年）を始まりに、全ての中学校区において協議会が順次発足し、現在は6つの地区協議会が活動

#### 実施上の工夫

- ・町内会やまちづくり委員会等、地区内の各種団体・機関により組織を構成し、地域総ぐるみの取組を推進
- ・年度末に「地域生涯学習推進協議会研修会」を実施し、各地区における活動の成果と課題を交流

### 2 特徴的な活動内容

上西春別中学校区生涯学習推進協議会では、小・中学校と連携して「教育フェスティバル」を開催。職業体験ブースの開設や別海の魅力と未来をテーマとした討論会を実施する等、小中連携の取組も含め、地域の子どもの育ちを考える日として広く地域に公開している。

また、音楽科（和楽器）の題材として、本別地区に伝わる「本別酪農太鼓」を取り上げ、知床流本別酪農太鼓保存会の指導により、ふるさとの伝統芸能に親しむ機会を提供している。

中西別地区生涯学習推進協議会では、子どもと地域をつなぐ取組として、幼稚園・小学校・中学校・高校生・青年会・老人会・地域住民が一堂に会する「子どもの成長をみる会」を開催している。



【子どもの成長をみる会】

### 3 事業の成果

- 学校や子どもの活動を見守り支える活動により、学校教育の充実が図られるとともに、学校と地域のつながりが深まり、児童生徒にふるさとへの愛着や誇り育む機会となった。
- 「地域の子どもは地域で育む」を合言葉に、地域住民も学校や地域に貢献する意識が高まったことにより、個人の学びを地域活動へ活かす機会が増えた。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	協議会を通じて、学校の教育活動を支援できる団体や個人を発掘し、地域全体による取組を推進
目標の共有	横断幕の掲示や広報誌の発行等により、子どもたちの成長とそれを育む活動の共通理解
多くの住民参画	3ヶ月毎に発行する地域カレンダーや広報誌等を通じ、広く地区住民へ周知

## 恵庭市 石狩管内

【活動名】  
若草っ子ひろば

【関係する学校】  
若草小



【若草小体育館での遊び活動】

## 市のプランに基づく 子どもの集う場所の整備

### 1 活動の概要

- 恵庭市では、恵庭市子どもの居場所づくりプランを策定し、市内を7つの地区に分け、「子どもの集う場所」の整備を計画的に推進
- 平成27年度から若草小学校を会場に「若草地区放課後子供教室（通称：若草っ子ひろば）」を開始し、放課後児童クラブと一体的に実施

#### 実施上の工夫

- ・ コーディネーター（市非常勤職員）を配置するとともに、8名の指導員を配置
- ・ 児童が保護者の了解のもとに参加していることを確認し、参加したことを保護者にも確認してもらうため、「若草っ子ひろばパスポート」を配付

### 2 特徴的な活動内容

体育館での遊びなど、一部のプログラムを放課後児童クラブと合同で実施しているほか、放課後子供教室のコーディネーターが児童クラブの打合せに参加し、積極的に情報交換を行うなど、両事業が一体的な取組を展開している。

放課後子供教室の指導員は、活動前に参加予約状況や遊びの内容を共有し、子どもたちが自主的に活動できるよう事前打合せを行っている。

また、自由遊びのほか、定期的にイベントを開催しており、昨年度は、恵庭青年会議所主催のカボチャランタン作りで「ギネスに挑戦！」に参加し、その取組が世界一に認定されている。そのほかにも、新聞に興味をもってもらうことを目的とした「まわしよみ新聞」づくりなどを実施している。



【まわしよみ新聞の作成】

### 3 事業の成果

- 事業が定着することにより、参加児童が増え、全学年対象で実施するプログラムなどを通して、異学年の交流が深まった。
- 児童クラブとの連携を図り、放課後子供教室と一体的に取り組むことで、プログラムの内容を充実させ、子どもたちが安心して集う場所の充実を図った。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	学校・行政と指導員間の連携を図るため、市の非常勤職員をコーディネーターとして配置
目標の共有	子供教室のコーディネーターが児童クラブの打合せに参加し、積極的に情報を共有
多くの住民参画	指導員の企画による地域の方やボランティアの参画を得たイベントの実施

## 平取町 日高管内

【活動名】

平取町放課後子ども教室

【関係する学校】

紫雲古津小・貫気別小・二風谷小



【地域住民による雅楽の指導】

## 地域の人材を活用した 体験活動の充実

### 1 活動の概要

- 放課後の子どもたちの安全・安心な居場所をつくり、学習や体験活動の場を提供するため、地域住民等の協力を得て実施
- 町内3地区（紫雲古津・貫気別・二風谷）に教室を開設。各教室における、継続的な学習活動や各種体験活動の実施

#### 実施上の工夫

- ・3教室の交流会などを通して、教育活動推進員や地域住民等と子どもたちの交流が図られるよう工夫
- ・定期的に放課後子ども教室関係者講習会を開催し、教育活動推進員や関係する地域住民等の資質を向上

### 2 特徴的な活動内容

今年度からの取組として、町内3教室において、地域住民の指導による「雅楽教室」を実施した。

日高雅楽会から、「雅楽教室」実施の提案を受けた教育委員会社会教育担当職員やコーディネーターは、事前に会員に対して、放課後子ども教室の趣旨や、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるとともに、地域を創生していく活動の大切さ伝えたほか、町内3教室で実施するための連絡調整等を行った。

子どもたちは、初めて雅楽を体験し、身近な地域住民から指導されたことなどから、興味を持って質問をするなど、子どもたちが地域の文化に触れる貴重な事業となった。



【地域住民が熱心に説明】

### 3 事業の成果

- 地域住民を指導者として活用したことで、子どもたちは親しみを持って積極的に活動することで、短期間で技術を習得するなど、体験活動による充実感を味わうことができた。
- 地元の文化団体の参画により、他の団体や地域住民が地域全体で子どもたちの成長を支えることの重要性に改めて気づき、それぞれの活動を子どもの成長に役立てようとする意識が高まった。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	社会教育担当職員や各教室のコーディネーター等が活動に関与する団体や個人と連絡調整
目標の共有	関係者講習会や事業打合せ等を通して、関係スタッフとの目標を共有する場を創出
多くの住民参画	町内における活動事例の成果を活かし、町内の各団体や人材の活用を促進



## 厚沢部町 檜山管内

【活動名】

館小学校放課後なかよし教室

【関係する学校】

館小



【地域の老人クラブの方々との交流】

## 異年齢交流による 多様な学習活動

### 1 活動の概要

- 放課後子ども教室と放課後児童クラブを一体型で運営しており、学校の空き教室のほか、体育館等も活用し、体力向上のための運動プログラムを実施
- 4時頃までは全校児童を対象にした放課後子ども教室、4時以降は放課後児童クラブの時間。毎週水・金曜日は学習アドバイザーによる特別活動を実施

#### 実施上の工夫

- ・ 週2回の特別活動には、地域の人材を活用した様々な講座を実施。また、役場福祉課と連携し、地域の老人クラブの方々を招いて交流
- ・ 小学生まで放課後子ども教室に参加していた中学生が、子ども教室のボランティアスタッフとして参加

### 2 特徴的な活動内容

小規模校の児童にとって課題の一つであるコミュニケーション能力を向上させるために、異年齢交流による学習活動の機会として、①地域の老人クラブの方々を教室に招待。野原で摘んだ草花で教室を飾り、名札作りやお茶菓子などでおもてなしをするほか、かるたや折り紙、すごろく、絵本の読み聞かせ等を実施。②中学生ボランティアがスタッフとして参加し、学習活動や体験活動等の運営。③地域の人材を活用した特別活動を実施し、自然観察会や科学教室、遊びリンピック等を実施している。

また、屋外の活動プログラムを積極的に取り入れて、コクワやヤマブドウ等の採集、隠れ家づくり、缶蹴り、レストランごっこ等、地域の豊かな自然環境を活かした体験活動を実施している。



【中学生ボランティアが運営】

### 3 事業の成果

- 子どもたちと地域住民の出会いの場をつくることにより、日常的に町内の店や路上で声を掛け合うようになったほか、老人クラブの方々学習発表会や百人一首大会に参加するなど、地域全体で子どもを守り育てる体制が整備された。
- 中学生がボランティアスタッフとして放課後子ども教室に参加することにより、小学生が中学生に中学校生活のことをよく聞くなど、異年齢の交流が促進された。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	1名のコーディネーターが協働の窓口になり、関係機関と綿密な打合せを実施
目標の共有	月間プログラム表と手作り新聞の定期的な発行による、地域住民やボランティアへ活動の周知
多くの住民参画	多様な学習活動を提供するために、中学生から高齢者まで幅広い年齢層の地域住民が参画

# 大空町 オホーツク管内

【活動名】

大空町放課後子供教室推進事業

【関係する学校】

女満別小・東藻琴小



【ふれあもちつき大会】

## 学校の教育活動と関連づけたプログラム

### 1 活動の概要

- 放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保を図るとともに、次世代を担う児童の健全育成を支援するため、教育委員会と福祉部局が連携
- 女満別地区では児童センター（めちやいるど館）を、東藻琴地区では学校の空き教室を会場とし、各地区の児童センター職員等と連携して実施

#### 実施上の工夫

- ・教育活動推進員として12名(H29.2 現在)が登録しており、コーディネーターが、活動内容に応じて教育活動推進員の参加を調整
- ・コーディネーターが、学校や児童センターと毎月打合せを行い、活動内容や子どもの様子について情報交換し、教育活動推進員と共有

### 2 特徴的な活動内容

地域人材の参画を得て実施した事業として、①ボランティアスタッフによる「ふれあもちつき大会」、②料理研究グループによる「料理教室」、③東藻琴山岳会による「藻琴山記念植樹登山」、④茶道同好会による「茶道教室」、⑤陶芸サークルによる「陶芸教室」、⑥ひがしもこと乳酪館による「手作りアイスクリーム教室」等がある。

「ふれあもちつき大会」については、小学校の総合的な学習の時間にお世話になっている農家から餅米を提供してもらい、自分たちで餅をつくという体験を実施した。学校で学んだことやつながりを生かし事業を展開している。また、東藻琴山岳会の方にもお手伝いいただくなど、地域人材やボランティア同士の交流を深める場となっている。



【お好み焼きをつくる料理教室】

### 3 事業の成果

- コーディネーターと小学校教頭が、毎月打合せを行い、学習内容や子どもたちの様子を交流することにより、学校行事等の学校の教育活動と事業を関連づけた取組の充実につながった。
- 事業に関わる教育活動推進員やボランティアが、自身の知識や経験を生かし、子どもたちのためにできる活動を主体的に考えることにより、自らの生涯学習活動を充実させるなど、個人の生きがいにつながっている。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	コーディネーターが、児童センター・ボランティア・学校との連絡調整を実施
目標の共有	コーディネーターと教育活動推進員が、活動の前に打合せを行い、ねらいや子どもの状況を共有
多くの住民参画	「子どもワールド 21 だより」の発行を通じて、住民に情報提供し、参画しやすい環境を醸成



## 鹿部町 渡島管内

【活動名】  
しかべっ子教室

【関係する学校】  
鹿部小・鹿部中



【浜の母さんの指導で地元で獲れたタコを調理】

団体の特性を生かした  
様々な体験活動の展開

### 1 活動の概要

- 児童生徒に地域を愛する心を育み、心身の健全育成を図るため、地域住民の積極的な参画により様々な体験活動を実施
- 小1～2は「しかべっ子教室 Jr.」、小3～6を「しかべっ子教室」、中学生は両教室のサブリーダーとして参加するなど、発達段階を踏まえた事業を展開

#### 実施上の工夫

- ・ 町内の各団体の特性を生かす事業を実施
- ・ 会員カードの作成、皆勤賞等により、児童生徒の参加意欲向上
- ・ 学校の水泳学習実施前に当事業で「プール遊ぼう！」を実施する等、他の事業との関連をもたせた事業構成

### 2 特徴的な活動内容

地域の畑を借りて、5月に「ひまわり植え」、8月に「ひまわり迷路で遊ぼう」、8月の「宿泊研修」で炊事、集団宿泊を体験し、9月の「公民館でナイト」は児童が中心となって宿泊体験を行う等、活動内容に連続性をもたせ、参加者のスキルアップが図られるよう工夫している。

また、「浜のかあさんとクッキング」、氷上「わかさぎ釣り」等、地域の素材を多く取り入れ、地域住民の協力を得て実施している。

鹿部町は、小学校、中学校が各1校であるため、「宿泊研修」は、自校以外の児童生徒と交流する機会として近隣市町と合同で開催している。活動は上級生が下級生の活動をサポートできるよう異年齢集団で行い、リーダーの養成を図っている。



【「公民館でナイト」でカレー作り】

### 3 事業の成果

- 地域の団体が活動の支援に関わる機会が増えたことにより、地域住民と子どもたちとの触れ合いの機会が増えたり、子どもたちが地域の産業などに興味をもったりするようになった。
- 子どもたちが、様々な体験をしたことにより、積極的になり、様々なことにチャレンジしたり、問題を自分で解決しようと考えたりする姿が多く見られるようになった。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	町教委の社会教育主事がコーディネーターとなり、地域や各団体、他市町と連携
目標の共有	コーディネーターによる連携団体への事業目的の説明による共通理解
多くの住民参画	積極的な事業広報による町民の事業理解及び各関係団体の参画促進



## 利尻町 宗谷管内

【活動名】

サタデーイングリッシュキャンプ／りしり土曜塾

【関係する学校】

沓形小・仙法志小



【イングリッシュキャンプの「まちたんけん」】

## 地域の人材を活用した 継続的な教育活動

### 1 活動の概要

- サタデーイングリッシュキャンプは、外国語活動を通して、外国の言語や文化についての理解や外国語でコミュニケーションを図る機会を小学生に提供
- りしり土曜塾は、体験活動を通して、利尻町の歴史・文化を再発見する機会や利尻島全体の自然に触れる機会を小学生に提供

#### 実施上の工夫

- ・既存の事業を集約し、年間を通して小学生が学ぶ楽しさを味わうことができるよう体系的・継続的なプログラムを再構成
- ・地域の人材である地元の環境保護団体やALT、地元の高校生を、講師やボランティアとして効果的に活用

### 2 特徴的な活動内容

サタデーイングリッシュキャンプでは、短期留学の経験や英語検定に合格している地元の高校生をボランティアとして活用している。高校生が英語で読み聞かせを行ったり、参加していた小学生が、わからないことについて説明したりすることにより、外国の言語や文化について理解するよう工夫した。

りしり土曜塾では、利尻島の自然環境の現状を学ぶために、特に利尻島内の湿原保全と外来種の駆除の取組を主体的に進めている「利尻島自然情報センター」と連携して、帰化植物であるオオハンゴンソウの駆除を体験した。小学生は地域の活動を知るとともに、帰化植物の多さを実感し、環境保全について学ぶことができた。



【土曜塾のオオハンゴンソウの駆除】

### 3 事業の成果

- サタデーイングリッシュキャンプにおいて、可能な限り英語を使ってALTや高校生などと交流することにより、子どもたちは積極的に外国語でコミュニケーションを図り、他者と交流を深めようとする意欲を高めた。
- 地域で活動している大人と共に自然体験を行ったり、利尻の歴史について学んだりすることで、自分たちの住んでいる利尻町の魅力や課題などを新たに発見することができた。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	高校や環境保全団体など、事業の目的に応じて団体等と連携し、事業を実施
目標の共有	連携する団体等と事前打合せを実施し、事業の目標や取組内容について情報交換
多くの住民参画	「利尻町生涯学習ボランティアバンク」の活用による、学校のニーズに応じた連携する団体の選択

## 白糠町 釧路管内

【活動名】

白糠町における土曜授業

【関係する学校】

白糠小・庶路小



【白糠小のアイヌ文化出前授業】

## 土曜授業を活用した「ふるさと教育」の推進

### 1 活動の概要

- 白糠町内の小中学校では、平成 28 年度より年 5 回の土曜授業を実施。子どもたちの学びをより豊かにし、地域全体で育てる体制づくりを推進
- 地域の文化団体や企業、町内会と連携・協力し、白糠町が教育の基軸とする「ふるさと教育」をより一層充実させる授業づくりを実施

#### 実施上の工夫

- ・土曜授業等において、アイヌの人たちの文化や伝統について学ぶことで、ふるさとの理解を深める機会を充実
- ・安心・安全な地域環境を整備し、子どもと地域が安心して生活できるように、連携した防災教育を実施

### 2 特徴的な活動内容

白糠小学校では、白糠アイヌ文化保存会による出前授業を全学年で実施している。①カルタによるアイヌ語学習、②「ムックリ」の演奏体験、③古式舞踊和踊りの体験、④アイヌ民族料理の調理体験と、学年に応じた内容を取り上げ、地域のアイヌ文化を学ぶ活動が行われている。

庶路小学校では、地域の町内会や企業と合同で津波避難訓練を実施している。地域住民が避難経路に立ち、子どもたちを見守りながら避難し、安全を確保した。防災という地域の課題を共に考える機会となっている。

また、土曜授業に合わせて「ふるさと参観日」や学習の成果を発表する時間を設定し、地域の方が気軽に学校へ足を運べるように周知するなど、学校と地域とのつながりを深めている。



【庶路小の地域合同避難訓練】

### 3 事業の成果

- 地域の文化に触れ、地域住民と関わる機会を充実させることにより、子どもたちの学びがより一層深まり、地域の良さや課題に興味をもって学習するようになった。
- 地域と連携して、白糠町「ふるさと教育」の推進に向けた取組を充実させることにより、平成 30 年度より庶路地区で開始するコミュニティ・スクール導入へ向け、学校と地域が一体となって子どもの支援に関わる体制土台づくりにつながった。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能	教育委員会社会教育課による文化団体情報の提供、町内会活動との連携
目標の共有	目指す子どもの姿が共有できるように学校行事や学習参観などの機会を充実させ、情報を発信
多くの住民参画	文化団体との連携、PTAや地域の青少年健全育成会による地域住民への呼びかけ・周知



## 小樽市 後志管内

【活動名】  
樽っ子学校サポート事業

【関係する学校】  
市内全小・中学校（小21、中13）

## 学生との協働による 学校支援活動



【高校生の樽っ子学校サポーターによる学習支援】

### 1 活動の概要

- 平成23年度、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えるため、学校・家庭・地域が一体となって、小樽市教育支援活動推進事業運営委員会を組織
- 小樽市内の全小中学校を対象に、各学校で行われる放課後や長期休業中の補充学習に学習支援として「樽っ子学校サポーター」を派遣

#### 実施上の工夫

- ・将来的に持続可能な事業になるよう、学校と行政がそれぞれの役割を分担し、補足的な学習のサポートを実施
- ・3名の地域コーディネーターが「樽っ子学校サポーター」のコーディネートを行い、大学生及び高校生、地域住民を派遣

### 2 特徴的な活動内容

学習支援は各小中学校を会場にし、参加者の募集やプリントの準備は学校が行っている。子どもたちは、自分に必要な学習を主体的に判断し、プリントや宿題などの補足的な学習に取り組んでいる。

「樽っ子学校サポーター」は、プリントの採点や個別指導、音読指導など、その学校のニーズに合わせて対応している。

大学生や高校生のサポーターは、年齢が近いこともあって接しやすく、気軽に勉強の仕方や経験談を聞くことができる。子どもたちにとって身近な将来の目標であり、自分の進む進路の情報を得ることに役立っている。

また、コーディネーターが地域ボランティアを発掘することで、登録者数は年々増加している。



【大学生や高校生、地域住民が指導】

### 3 事業の成果

- 子どもたちの参加者が、のべ5,000名を超えたほか、ボランティアに参加した大学生及び高校生、地域住民が年間のべ300名以上となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制が確立された。
- ボランティアの学生が、子どもへの指導を通して、ふれあいを充実させたことにより、学生にとっても将来の目標の明確化や学習意欲の向上など、人間的な成長につながった。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネーター機能

3名の地域コーディネーターが窓口となり、学生やボランティアとの連絡調整を実施

目標の共有

ホームページや通信から情報発信を行い、学校やボランティアとの目標を共有

多くの住民参画

地域の大学生や高校生の人材発掘を行い、学校の要望にあった人材確保



## 洞爺湖町 胆振管内

【活動名】  
洞爺湖町地域未来塾

【関係する学校】  
町内全小・中学校（小3・中2）



【小学生向け地域未来塾】

## ICT を活用した 地域人材による学習支援

### 1 活動の概要

- 常設の活動は、毎週月曜日が虻田小低学年、火曜日は高学年、水曜日は虻田中3年生が対象で、毎月第3水曜日に洞爺小中学校を対象に実施。
- 特設の活動は、7月の3連休に町内全ての小学生を対象に実施するほか、夏休みと冬休みの2日間で中学3年生対象に受験対策として実施。

#### 実施上の工夫

- ・多くの子どもたちの参加を促すため、学校に近い社会教育施設を活用することで、放課後に集まりやすい環境を整備
- ・中学校3年生の高校受験を意識した学習内容に対応するため、受験指導に精通した講師を活用

### 2 特徴的な活動内容

電子タブレット端末（iPad）や電子黒板などのICT機器を活用することにより参加者の学習への意欲・関心を高め、多くの子どもたちが参加している。

また、実際に使っている教科書とリンクした、クラウド型の学習ソフトをiPadにインストールすることで、子どもたちが自主的に自分のペースで学習を進めることができ、学習を支援するスタッフやボランティアの負担軽減が図られている。

さらに、履歴管理や管理者とのメール機能も搭載しているため、指導にあたる講師やボランティアも少数で対応できる体制が整備され、子どもたちの学習状況や利用状況も把握することができている。



【ICTを活用した中学生向け未来塾】

### 3 事業の成果

- 常設で実施している地域未来塾は、教育指導専門員1名で対応するため、当初は、虻田小学校1校、登録人数が19名でスタートしたが、その後、対象を広げたことにより洞爺小中学校、虻田中学校も含め、現在の登録人数は70名に増加した。
- 教育指導専門員のコーディネートにより、学校支援ボランティアをはじめ、各団体が連携・協働を進め、それぞれの活動が活性化し、学校を核とした地域住民の活動が定着している。

#### 「地域学校協働活動」のポイント

コーディネート機能	教育指導専門員と社会教育担当者が学校からの助言等を踏まえて連絡調整を図り実施
目標の共有	運営・協力者間で情報交換会を実施し、学校支援ボランティアをはじめ、各団体に活動を周知
多くの住民参画	地域のボランティア団体や社会教育団体、保護者、教職員等と連携した取組

## 平成28年度「地域学校協働活動」実践事例集

---

発行 平成29年3月  
北海道教育委員会

問合せ 〒060-8544  
札幌市中央区北3条西7丁目  
学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ  
TEL 011-204-5753  
FAX 011-232-1072  
E-mail [kyoiku.tiikisien1@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:kyoiku.tiikisien1@pref.hokkaido.lg.jp)

---

